日本の学童ほいく 普及拡大ニュース
全国学童保育連絡協議会
みんなで読もう！ 目標 3万4000部
2023年6月7日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

元気が出るみんなの取り組みをご紹介

楽しく普及拡大

まずは、指導員さんの全員購読を目標に掲げよう！

学童保育への理解を広げよう・深めよう！

札幌市の取り組み

読み合わせを通して広げよう購読の輪！

札幌市学童保育連絡協議会では、ここ数年、連協加盟の世帯数が減少傾向にあり、『日本の学童ほいく』の購読数も同様に減少しており、苦戦しています。しかし、編集委員をはじめ、2023年5月号、2022年10月号など、執筆で多くの保護者の皆さんにご活躍いただいており、なんとか購読の輪を拡げていければと思っています。

札幌市連協として、まず「指導員の全員購読」を毎年の目標に掲げています。指導員の会が行う月例の研修にほいく誌の読み合わせを位置付けて実施しているブロックもあり、市連協事務所はオンラインのホストとして参加し、その様子を把握しつつ、保護者のあいだでもこのような読み合わせを行っていくことを今年度の課題として考えています。

無料の公設児童クラブがある札幌市内で、より多くの皆さんに「学童保育って“本当は”どんなところ？」ということを考えてもらい、保護者と指導員でつくる“民間の学童保育”の良さをアピールしていくためにも、ほいく誌の購読を、加盟学童保育はもとより、連協加盟関係者以外へも拡げていくことが大切だと思っています。

保護者から一言

親子で楽しめる『日本の学童ほいく』

全国研で私が行った特別報告が写真付きで掲載されたこともあってか、子どもたちにも「読んだよ」と声をかけてもらえてうれしかったので、「子どもと一緒に読むこともできる」という点もアピールしたいなと思いました。保護者同士、指導員とのつながりのヒントになることももちろんたーくさんありますが、子どもと一緒に読むことで、会話のきっかけになったり、人との関わり方や生き方のヒントになることも載っていたりして、親子でも活用しています。

日本の学童ほいく5月号

特集 子どもも大人もつながって
——学童保育の保護者会・父母会

今回の特集では、保護者会・父母会を通じて保護者同士、保護者と指導員が関係を築くことの大切さ、その必要性についてあらためて確認するとともに、コロナ禍における現状や工夫の経験についても交流し、今後の保護者会について考えあいます。

日本の学童ほいく
みんなで読もう目標 3万4000部
子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

全国学童保育連絡協議会
普及拡大ニュース
2023年6月7日

読者の声

岡山県美作市●保護者から

2023年1月号「出会い集い父母会」のコーナーに掲載された「『みんなで楽しめる学童保育を』と願って」を拝読して、とても刺激を受けました。

コロナ禍でも工夫して、2022年度はすべての行事を再開されたこと、また運営面を意識して役員を募られていることなど、前向きな姿勢で保護者会の活動を実践されていて、皆さんがイキイキと活動されている様子が目に浮かぶようでした。

私自身、保護者会役員2年目になりますが、まだまだ手探りで、「これでいいのかな」「これで大丈夫かな」と思う場面も多々あります。

印象として、その年度ごとに完結してしまい、コロナ禍の影響もあってか積み重ねがむずかしく、指導員の先生方にリードしていただいている部分が大きいと感じています。

2023年度、息子も5年生。保護者会の活動もバトンタッチの時期がきているので、少しでも保護者同士がつながって、学童保育の子どもたちをみんなで見つめ、支えあえる関係づくりができたらいいなと思いました。

(『日本の学童ほいく』2023年5月号　読者のひろばより)

長崎県長与町●指導員から

2022年4月、2年ぶりに保護者会を開催することができました。保護者同士、久しぶりに会えた方もいたようで、短い時間でしたが、有意義なひとときを過ごせたようでした。以前は、保護者の役員が計画してくれる親子参加の行事や交流会などがあり、普段は顔をあわせる機会のない保護者とも話ができ、いつもと異なる表情を見せてくれる子どもたちに新たな発見もありました。

私がこうした場にはじめて参加したときには、参加する家庭が多いことにおどろきましたし、保護者同士の仲のよい様子が印象的でした。子どもたちも家族に友達を紹介しあうなどして知りあうことができていましたし、学童保育のことや、何気ない話をしつつ盛り上がったことを思い出します。こうした場を通じて保護者同士も顔見知りになり、つながりを持てるっていいなと思いました。

同じ年頃の子どもを持つ保護者同士が共感しあい、相談できる仲間がいることは心強いと思います。交流をとおして仲間とつながれるのが保護者会のいいところ。そのことを再確認し、保護者同士、指導員と保護者のつながりの大切さをあらためて感じています。

この間、思うように活動できないことが多いなかでも、役員会を定期的に開催し、なにができるか、どうすれば楽しめるかを一緒に考えてきました。

徐々に制限が緩和されはじめたなかで、今年こそは親子交流行事を再開できるのでは……と期待しています。

(『日本の学童ほいく』2023年5月号　読者の投稿より)

私と「ほ・い・く・誌」

読者リレー執筆・今月は愛媛県西予市から保護者OBの樋口志保さん

2004年に長女が小学校に入学し、市から委託を受けた運営委員会（地域・学校関係が委員）の運営する学童保育に入りました。翌年に引っ越しして、2年生からは保護者会が運営する学童保育に入りました。保護者説明会で「預かってもらっている」から「一緒に預かる」という意識に変わり、指導員さんから『日本の学童ほいく』を読んでと言われたのが始まりでした。その後、保護者会・会長となり、運営側になってみないとわからない大変さや指導員の待遇の悪さを目の当たりにして、1年後には県連協を立ち上げ、委託料を全国レベルまで引き上げるように県に要望しました。無我夢中で走り抜け、気が付けば10年以上が過ぎていました。

私としては「学童保育はずいぶんよくなったな」と思うのですが、社会の発展のほうが早くて新たな課題が次から次に出てきてゴールが見えない状態です。「今しんどくても耐えればそのうち子どもが成長してやり過ごせる」と考える保護者も少なからずおられるかもしれませんが、後に続く子どもや保護者のために、少しでもよくしたいと考えてくれたらいいなと思います。

ほいく誌は貴重な情報交換の場。学童保育に関わるすべての方が手にすることを願っています。子どもたちのそして学童保育のよりよい未来のために。

編集・発行　全国学童保育連絡協議会　〒113-0033 東京都文京区本郷2-26-13　TEL●03-3813-0477　FAX●03-3813-0765
E-mail●zghrk@xui.biglobe.ne.jp　http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou